

Carbon Frontier Magazine

カーボンフロンティアマガジン

第 39 号(2026 年 7 月号)

目次

カーボンフロンティア機構からのお知らせ

- カーボンプライシング入門 (28)を当機構 HP に掲載
- 開催報告: 夏休みこども見学会
- 9/3・9/4 開催の国際会議のご案内

今月の Topics

- EI における Statistical Review of World Energy 2026 について

海外ニュース

- 豪州: ヤンコールがアシュトン炭鉱の閉山を決定、雇用に影響
- 豪州: マラバーのマックスウェル炭鉱が正式開所、長期的な生産体制へ移行
- 豪州: ストラトフォード炭鉱跡地の揚水発電所がニューサウスウェールズ州の認可を受ける
- 中国: 中国の再生可能エネルギーは急増しているが、送電網のボトルネックにより石炭使用が削減されないリスクがある
- カナダ: カナダ、パスウェイ CCS プロジェクトの推進に関する合意を締結
- EU: EU における CCU の気候中立への貢献に関する最新のモデリング結果
- 世界: 海外の Coal & Energy 会議情報
- グローバル: 世界粗鋼生産(2026 年 6 月)

石炭価格推移

日本の炭種別石炭輸入量統計

アンケートへのご協力お願い

独り言

カーボンフロンティア機構からのお知らせ

■ カーボンプライシング入門（28）を当機構 HP に掲載

カーボンプライシング入門(28) 2026 年度開始の排出枠取引制度(2)

(概要の紹介)

2026 年4月1日に施行された排出枠取引制度について、全 3 回で制度の概要と事業者の対応における注意点を説明いたします。第 1 回では制度全体の概要と、既往の制度対応で活用できる点を取り上げました。第 2 回となる今回は、2026 年度内に行うべき年度平均排出量の届出、移行計画の提出等の詳細を説明します。第 3 回では、来年度以降に行うべきこと、法体系、基本用語及び未制定規定の今後の予定について解説する予定です。

1. 年度平均排出量の届出

対象事業者は毎年度、前年度までの直近 3 年度の各年度の CO₂ の直接排出量を平均した量(年度平均排出量)を算定し、制度対象となるか否か判定を行います。平均排出量が 10 万トン以上の事業者は、登録確認機関の確認を受けたうえで、CO₂ の年度平均排出量及び当該年度における排出目標量等を届け出なければなりません。この義務を怠ると罰則が科されることになります。

初年度の 2026 年度に限り、排出目標量等合計量の届出及び排出枠の割当ては 2027 年度となりますので 2026 年 9 月 30 日までに届出が必要となるのは平均排出量及び関連する基本情報のみです。

2. 移行計画の提出

移行計画とは、事業者が排出削減目標と、その達成に向けた設備投資・研究開発等の取組を取りまとめた計画です。本制度では制度対象事業者に毎年度の提出が義務付けられており、提出された計画は公表されます。2026 年度の移行計画の提出期限も 9 月 30 日です。提出を怠ると罰則が科されます。

移行計画では、組織境界を任意で設定することはできず、事業者単位で作成します。年度平均排出量密接関係者(親会社・子会社など一定の関係を有する事業者)と共同で届出をした場合は、密接関係者の CO₂ 排出量を自らの排出量とみなして、移行計画を作成する必要があります。

詳細は JCOAL 会員ページをご参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/member/country/28.html>

■ 開催報告：夏休みこども見学会

科学技術館との共催で、「科学技術館サイエンス友の会見学会」を 7 月 22 日(水)、J-POWER 礪子火力発電所にて実施した。今回は小学 4～6 年生の参加枠 9 名に対して 36 名の応募があり、抽選の結果、保護者を含めて 18 名にご参加いただいた。

まず石炭火力発電の仕組みや環境対策の取組について、ISOGO エネルギープラザの担当者から説明を受けた。その後展示室で礪子火力発電所構内の 100 分の 1 スケール模型で施設概要の説明を受けた後、タービン・発電機や運転センター、高さ 100m 近いボイラ建屋の屋上等を見学した。

質疑応答では、「水は 100℃で沸騰するのに、なぜそれ以上の温度になるのか」といった物理に関する質問のほか、発電所の作業員ごとに勤務時間が異なるのか、この発電所の職員はどのような勉強をして入社したかなど、幅広い分野の質問が寄せられていた。

また、保護者も含めた参加者の方々は、見学会の合間に世界の石炭利用の歴史や石炭の特性を学習できる映像を視聴する、見学会後に職員に別途質問をするなど、石炭火力発電に強い関心を持ったことが窺えた。

今回の抽選の結果、ご参加いただけなかった方々にお詫び申し上げるとともに、開催にご尽力いただいた科学技術館及び J-POWER の関係者の皆様に、改めて御礼を申し上げる。また、参加者の皆様ならびに見学先の皆様には、見学会の様子を JCOAL の X(旧ツイッター)およびInstagramで発信するための写真掲載についてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



発電所前



学習用映像を視聴する参加者の方々

■ 9/3・9/4 開催の国際会議のご案内

皆様のご支援のもと、「クリーン・コール・デー国際会議」は第 35 回を迎え、本年 9 月 3 日(木)に丸ビルホール&コンファレンススクエア(7 階)にて開催する運びとなりました。

また、翌 9 月 4 日(金)には、「資源の安定供給と脱炭素化シンポジウム 2026」も同会場にて実施いたします。

会議基本情報

会 場: 丸ビル ホール&コンファレンススクエア (7 階)

https://www.marunouchi-h-c.jp/res/pdf/s1/access/accessmap_j.pdf

会議形式: ハイブリッド (対面会場、オンライン)

使用言語: 日本語/英語 (同時通訳)

会議概要

1) 2026 年 9 月 3 日(木):第 35 回クリーン・コール・デー国際会議(2026)

テーマ:世界のエネルギー動向と CCUS 等による現実的脱炭素化への努力

本会議では、世界のエネルギー動向や各国の政策・産業界の取組を共有するとともに、CCUS をはじめとする革新的脱炭素化技術の役割と可能性について議論し、エネルギー安全保障と脱炭素化の両立に向けた現実的な方策と国際協力の在り方を探ります。

2) 2026 年 9 月 3 日(木)(タ):2026 カーボンフロンティア意見交換会

参加費:5,500 円(領収書発行、税込、現金のみ)

クリーン・コール・デー国際会議終了後、両会議の講演者や関係者との交流を目的とした意見交換会を開催いたします。ネットワークを広げる機会として、ぜひご参加ください。

3) 2026 年 9 月 4 日(金):資源の安定供給と脱炭素化シンポジウム 2026

テーマ:「石炭のエネルギー安定供給への貢献」

本シンポジウムでは、エネルギー安定供給に向けた石炭のサプライチェーンの重要性について改めて議論するとともに石炭資源の新たな利活用についても議論します。

会議専用サイト

<https://ccd2026.jp/>

※会議の詳細情報等随時更新。参加登録はこちらから。

参加登録

事前に上記会議専用サイトより参加登録をお願いいたします。

登録締切:

会場参加 : 2026 年 8 月 27 日(木) 12:00(JST)まで

オンライン参加: 2026 年 9 月 1 日(火) 12:00(JST)まで

開催後、1 カ月間限定でアーカイブ配信を予定(参加登録者限定)

追加情報**① 個別会議(バイ会談)の参加企業を募集します:**

国際会議隣室にて皆様からのリクエストベースで個別会議を実施します。皆様の今後のビジネスにつながる機会になりますよう、ご活用ください。ご希望される場合は①のお問い合わせ先までお申込みください。

② "JCOAL e-book 2026"への投稿を募集します:

国際会議実施後に、会議内容や議論を紹介するとともに、国内外の皆様のカーボンニュートラルへの取組を含めた e-book を編纂し、世界に向けて発信します。皆様のカーボンニュートラルへの取組を世界に向けて PR する場としてご活用ください。投稿を希望される場合には、①までお申し込みください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

お問合せ先**①国際会議について**

一般財団法人カーボンフロンティア機構(JCOAL) 国際事業部 藤田・陳

E-MAIL clean-coal-day 2026@jcoal.or.jp

TEL 03-6402-6104 FAX 03-6402-6110

②登録について

株式会社 Piic 和泉・山岸

E-MAIL ccd2026@piic-inc.com

TEL 03-6822-5350

今月の Topics

■ EI における Statistical Review of World Energy 2026 について

国際的なエネルギー産業関係者等の団体、Energy Institute(EI)は、6 月 30 日に「Statistical Review of World Energy 2026」を発表し、2025 年までの国際エネルギー統計およびレビューを公開した。

2025 年の世界の総エネルギー供給量(TES)は、世界全体であらゆるエネルギー供給源が増加し、600EJ(エクサジュール)を超え、2024 年比で 1.7%増加した。これにより、2 年連続で過去最高を更新したことになる。景気後退期以外で、再生可能エネルギー(以下再エネ)が TES 増加の最大の要因となったのは今回が初めてであり、その増加分の 71%を太陽光発電が占めた。化石燃料による発電も絶対量としては引き続き拡大し、TES の 86%を占めるなど、支配的な地位を維持している。

電力需要は TES を上回るペースで増加し続け、前年比 3%増となった。太陽光発電は 2025 年に 30%の伸びを記録し、総発電量に占める割合は 8.7%に達した。これは風力発電(8.4%)を初めて上回るとともに、原子力発電のシェア(8.8%)にほぼ並ぶ水準である。太陽光発電に次いで、風力発電は 2025 年における再エネの拡大を牽引する 2 番目の主要な電源となり、前年比 8.2%の増加を記録した。

再エネ導入が拡大しているにも関わらず、化石燃料の消費に伴う世界の CO2 排出量は 1.1%増加し、35,806 百万トンに達した。この増加分の 3 分の 1 以上は米国によるものとなった。欧州における化石燃料消費に伴う CO2 排出量は 0.5%増加した。

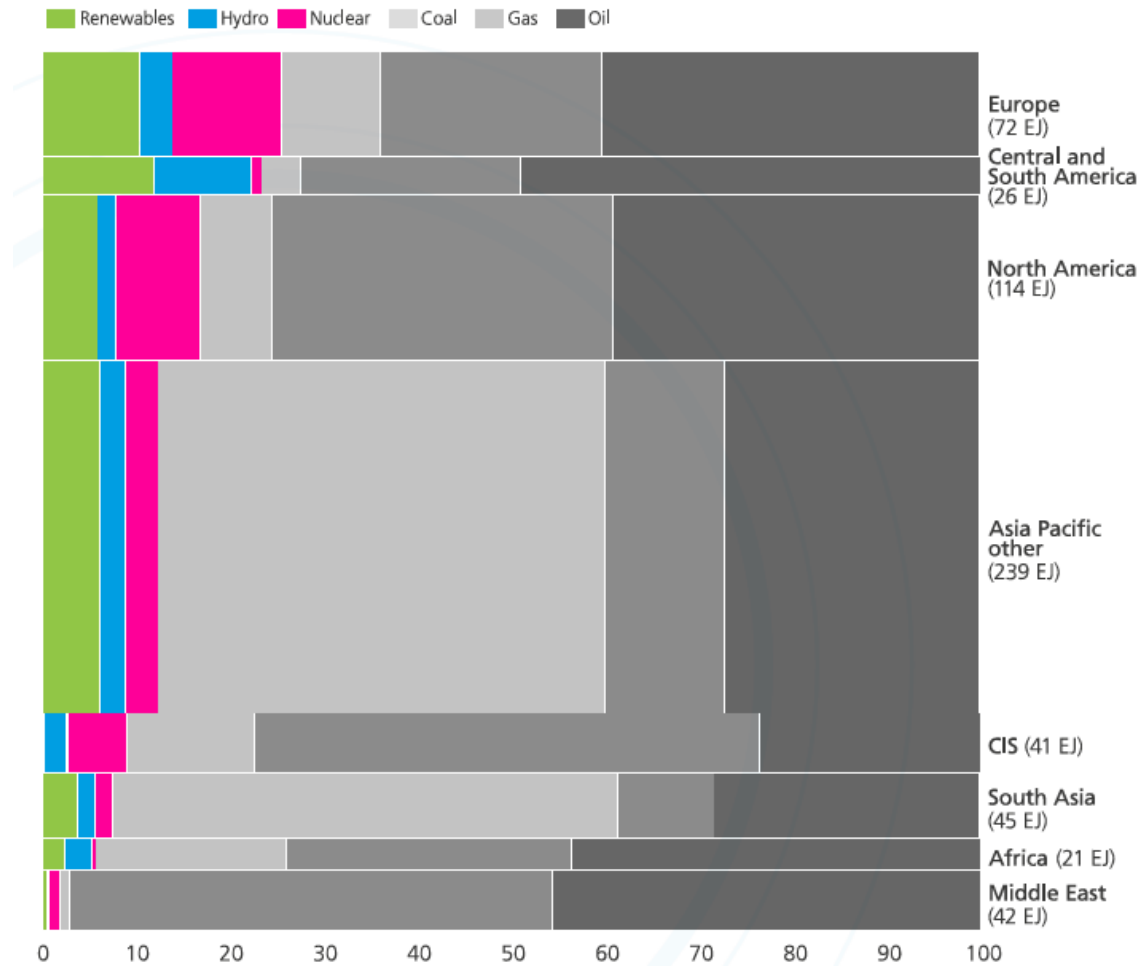
石炭分野については、2025 年には世界の消費量は前年比で 0.7%増加した。中国では、原料炭の需要が鈍化したことや太陽光発電が大幅に拡大したことを受け、消費量は前年並みで推移したが、単独でも世界の生産量の 52%、消費量の 56%を占めている。インドの石炭消費量は前年比 0.6%増となったが、これは過去 10 年間の平均成長率である 3.6%を大きく下回る水準となった。一方米国では、天然ガス価格が 50%上昇したことに伴い発電所の採算性が変化し、ガス火力発電から石炭火力発電への大幅な転換が進んだことで、石炭消費量が 10%増加した。

世界の各地域のエネルギー構成を見た場合、エネルギー転換の段階やアプローチ、さらにはエネルギー安全保障に対する解釈の違いが反映され、依然として大きな差異が見られる。アジア太平洋地域は、2025 年においても圧倒的に最大のエネルギー消費地域であり、世界の TES の約 47%を占めた。同地域は依然として石炭への依存度が高く、消費量は 138EJ を超え、世界の石炭消費量の約 83%を占めた。この高い依存度は、主に中国とインドによる消費が牽引している。同時に、同地域は再エネ拡大の中心地でもあり、再エネ供給量は前年比 16%増を記録した。これにより、アジア太平洋地域は、世界における再エネ拡大の最大の源であると同時に、最大の石炭消費地域となった。

欧州は、最も多様なエネルギー構成を示し、再エネの拡大が化石燃料に取って代わっている状況が最も明確に表れている地域となった。2025 年、再エネは同地域の TES の 11%を占め、過去 10 年間で平均 5.4%の成長を遂げた一方、他のすべてのエネルギー源は概ね横ばい、あるいは減少傾向となった。欧州は世界の再エネ消費量の 22.3%を占め、アジアに次ぐ第 2 位の地域だった。原子力エネルギーの役割はわずかに縮小し、同地域のエネルギー構成の 11%、世界の原子力発電量の約 27%を占めるにとどまった。石油は依然として最大のエネルギー源(40%)であり、次いでガス(24%、長期的には横ばい)が続いた。

北米は依然として石油と天然ガスの依存度が高く、両者で同地域のエネルギー供給の 4 分の 3 以上を占めている。これを支えているのは豊富な国内資源、とりわけ米国のシェール資源の開発・生産である。

世界全体をみると、資源の利用可能性、地政学的要因、そして各地域の発展段階の違いにより、エネルギー転換の道筋は地域ごとにますます多様化している。



2025 年の世界の TES 地域別構成(出典:Statistical Review of World Energy 2026)

海外ニュース

■ 豪州： ヤンコールがアシュトン炭鉱の閉山を決定、雇用に影響

豪州の炭鉱企業ヤンコールは、アシュトン坑内掘炭鉱（ニューサウスウェールズ州ハンター・バレー）を 2028 年初めまでに閉山すると発表した。技術的課題や操業リスクに加え、人件費・資材費や規制対応費の上昇などコスト負担が増し、将来的な採算確保が困難と判断したことが理由である。

閉山に伴い、計 275 人が影響を受ける見込みで、まず計画・開発業務の停止により約 60 人が離職し、2027 年初めの坑道掘進終了で 69 人、2028 年初めの長壁式採炭終了で 146 人が影響を受ける。ヤンコールは配置転換や再就職支援、福利厚生面での支援を行うとしている。

一方、鉱業エネルギー労働組合は、ハンター・バレー地域の他鉱山への積極的な配置転換や、十分な事前通知、職業訓練、経済的支援などを実施し、すべての従業員に雇用継続の機会を提供するようヤンコールに求めている。

（出典：Australia's Mining Monthly）

■ 豪州： マラバーのマックスウェル炭鉱が正式開所、長期的な生産体制へ移行

豪州ニューサウスウェールズ州アッパー・ハンターにあるマラバー・リソーシズのマックスウェル長壁式坑内掘炭鉱が正式に開所し、長期的な生産段階に入った。

2026 年 4 月に初めて長壁採炭を開始し、現在は約 430 人を雇用している。炭鉱は 2020 年に承認、2022 年に建設を開始し、生産される石炭の少なくとも 75% は製鉄用原料炭（非微粘結炭）として利用される。

同社は、マックスウェル炭鉱が地域経済を支える長期的な雇用と事業機会を創出するとともに、鉱業、農業、ワイン産業、競馬産業など地域の既存産業と共存するよう設計されていると強調した。また、再生可能エネルギー事業や採掘跡地の農地・再エネ利用なども組み合わせ、多様な地域産業の発展を目指す方針を示した。

開所式では州政府関係者も石炭産業が地域経済や雇用を支える重要な役割を担っていると評価した。一方で、州政府は 2026 年 3 月に新規グリーンフィールド炭鉱の開発を認めない方針を打ち出しており、既存炭鉱の重要性を認めつつも、新規開発を抑制する政策との対比も指摘されている。

（出典：Australia's Mining Monthly）

■ 豪州： ストラトフォード炭鉱跡地の揚水発電所がニューサウスウェールズ州の認可を受ける

豪州ニューサウスウェールズ州政府は、ニューカッスルの北約 95km に位置するストラトフォード炭鉱跡地を、揚水発電所および太陽光発電所に転換する総額 18 億豪ドルの「ストラトフォード再生可能エネルギーハブ（SREH）」について、最終的な計画承認を与えた。同炭鉱は 1995 年に生産を開始し、2024 年に採炭を終了した。

炭鉱を所有するヤンコール社が計画する SREH は、出力 300MW・蓄電容量 3,600MWh（連続 12 時間）の揚水発電設備と、出力 320MW の太陽光発電所で構成される。既存ダムと新設する上部貯水池の間で水を移動させ、昼間に余剰電力を蓄え、夕方の需要ピーク時に発電する調整力として活用する。ニューサウスウェールズ州が掲げる 2034 年の長時間蓄電目標の約 13% を担う見通しである。

同州で揚水発電事業が最終的な計画承認を得るのは 6 年ぶり、建設時に最大 350 人、運転開始後に約 10 人の雇用を創出する見込み。ヤンコールは今後、事業の採算性や所有・資金調達・運営方式を検討し、最終的な開発判断を行う。

ニューサウスウェールズ州では、BHP のマウント・アーサー炭鉱や出光興産のマッセルブルック炭鉱でも、閉山後の跡地を活用した揚水発電・再生可能エネルギー事業が検討されている。州内では現在、再エネ、蓄電、揚水発電、送電網など 57 件、合計 12.9GW の事業が審査中で、さらに 107 件が計画段階にある。

(出典: Australia's Mining Monthly)

■ 中国：中国の再生可能エネルギーは急増しているが、送電網のボトルネックにより石炭使用が削減されないリスクがある

グローバル・エナジー・モニター(GEM)の報告によると、中国では再生可能エネルギーの導入が急増する一方で、送電網の制約や、再生可能エネルギー関連の産業プロジェクトの影響により、本来であれば再生可能エネルギーに置き換えられる石炭火力発電の削減が進まず、石炭使用を長引かせるリスクがある。

中国には 500GW を超える風力および太陽光発電が建設中であり、これは世界の他国の合計を上回っている。しかし、送電網の制約やシステムの柔軟性を欠く電力市場の仕組みにより、再生可能エネルギーが豊富な地域で発電した電力が十分に活用されず、石炭は依然として主要な電力源となっている。

GEM は、中国では計画発表段階から建設段階の合計で、太陽光発電の大型プロジェクトでは 664GW、風力発電では 698GW の容量を有していると述べた。

同国は 2026 年末までに、風力と太陽光が、設置電力容量の 50%以上を占める目標を掲げている。

報告書では「すでに 251GW の風力発電容量が建設中であり、世界の他の地域の 2 倍以上に相当する。完全稼働すれば、ドイツの 2025 年の全出力に匹敵する年間電力を生み出せる」と述べている。

中国の再エネ開発は、砂漠地帯の北部・北西部に大きく偏っており、そこにある 6 つの省・自治区だけで、将来建設される風力・太陽光の半分以上を担っている。

中国はエネルギー貯蔵、グリーン水素等を通じて再生可能エネルギー発電と国内の工業需要を組み合わせることで対応している。

GEM は、このアプローチにより、再生可能エネルギープロジェクトが高排出の工業開発を支えつつ、石炭使用の大部分を置き換えないまま温存してしまう「石炭ロックイン」を引き起こす可能性がある」と警告した。

内モンゴルでは、2025 年の宝峰エネルギーのオレフィン製造プロジェクトが、1,000 メガワットの風力・太陽光発電とグリーン水素生産を組み合わせている。このプロジェクトにより年間 21 万トンの石炭消費を削減しているが、これは施設の年間石炭総使用量の 2.2%にすぎない。

GEM のリサーチアナリスト兼東アジア上級戦略家は、中国の再生可能エネルギーメガベースの成功は「追加されたギガワット数ではなく、それらが積極的に置き換える石炭の量で測られるべきだ」と述べた。

(出典: ASIANPOWER)

■ カナダ：カナダ、パスウェイ CCS プロジェクトの推進に関する合意を締結

アルバータ州とカナダ連邦政府、そしてオイルサンド・アライアンス(カナダの大手オイルサンド企業 5 社が参加する業界団体)は、新しい西海岸石油パイプラインを十分活用できるようにし、石油生産を大幅に増加させ、パスウェイ CCS 建設プロジェクトを進めるための覚書(MoU)を締結した。この三者間覚書は、オイルサンド生産の成長を加速し、提案されている西海岸石油パイプラインを含む新たな市場への製品流入に必要な一連の規制改革と財政措置を想定している。

稼働開始時には、パスウェイプロジェクトは複数のオイルサンド施設からコールドレイク地域のハブへ年間約 600 万トンの回収 CO₂ を安全に輸送・貯蔵し、恒久的な地下貯蔵を行う能力を持つことになる。

同アライアンスは、今後数年間で達成可能な追加削減を目指し、パスウェイプロジェクト、他の排出削減技術の導入、または生産慣行の改善を導入するプロジェクトを通じて取り組むとしている。「私たちはオイルサンド業界にとってプラスとなる枠組みを達成したと信じており、生産成長とパスウェイプロジェクトの進展に寄与する一歩を踏み出している」「これはカナダの石油生産を拡大し、カナダ国民に利益をもたらすという私たちの共通のビジョンを実現する一助となります。私たちのメンバーは、州政府および連邦政府と引き続き協力していきます。」と同アライアンス会長のケンドール・ディリング氏は述べた。

(出典: Carbon Capture Journal)

■ EU：EU における CCU の気候中立への貢献に関する最新のモデリング結果

CO₂ Value Europe は7月16日、EU における気候中立の実現に対する CCU の貢献について最新のモデリング結果を発表した。

この報告書は、2024 年に発表された初の定量的評価のフォローアップとして作成された。この取組は、CCU および関連分野に関する国際的な産業、技術、経済、学術界の国際的な専門家の協力のもとで実施され、CCU の潜在的な貢献度を定量化した。それ以降、データと分析手法の改良が進められたことで、新しいモデリング結果や前回評価からの主な変更点を反映し更新報告書が作成された。

この新しい報告書によると、2050 年までに EU は主に生物由来(26%)、大気(34%)、プロセス排出(20%)から約 400 百万トン CO₂を回収でき、約半分を製品に変換し、残りは地下に貯留される見通しである。CCU 技術は大量の低炭素電力を必要とするが、2050 年までに EU の燃料需要の半分以上を生産でき、化石燃料への依存を減らし、エネルギー主権を強化し、温室効果ガス排出を削減する。

今後の計画としては、部門別およびテーマ別文書および詳細な方法論が 2026 年 9 月に発表される予定である。

報告書は以下の通り。

<https://co2value.eu/wp-content/uploads/2026/07/CVE-CCU-Contribution-to-2050-V2-July-2026.pdf>

(出典: CO₂ Value Europe)

■ 世界：海外の Coal & Energy 会議情報

◆Surat Basin Energy Summit

19 Aug 2026, Dalby, Australia

https://10times.com/e1rp-324g-9rxs#google_vignette

◆Electra Mining Africa 2026

07 September 2026 - 11 September 2026, Southern Africa

<https://www.worldcoal.com/events/electra-mining-africa-2026/>

◆Eurocoke Summit 2026

16 September 2026 - 17 September 2026, Barcelona, Spain,

<https://www.worldcoal.com/events/eurocoke-summit-2026/>

◆ICOE Conference

17 - 19 Sep 2026, Melbourne, Australia

<https://10times.com/e1k2-d8pd-0hd5>

◆China Shale Gas Summit (CSGS)

21 - 22 Sep 2026, Chengdu, China

<https://10times.com/e1hr-51zp-4z3p-g-china-shale-gas-summit>

◆CT Asia 2026

September 27-29, 2026, Bali, Indonesia

<https://www.fastmarkets.com/coaltrans/>

◆Coal Association of Canada Conference

Wed, 30 Sep - Fri, 02 Oct 2026

Vancouver, Canada

<https://10times.com/coal-association-canada>

◆WORLD ENERGY CONGRESS 2026

12-15 Oct 2026

Riyadh, Saudi Arabia

<https://worldenergycongress.org/>

◆Met Coke World Summit 2026

Coming Soon

<https://www.metcokemarkets.com/metcoke>

■ グローバル：世界粗鋼生産(2026 年 6 月)

World Steel Association 2026 年 6 月の世界粗鋼生産量(世界 70 カ国)

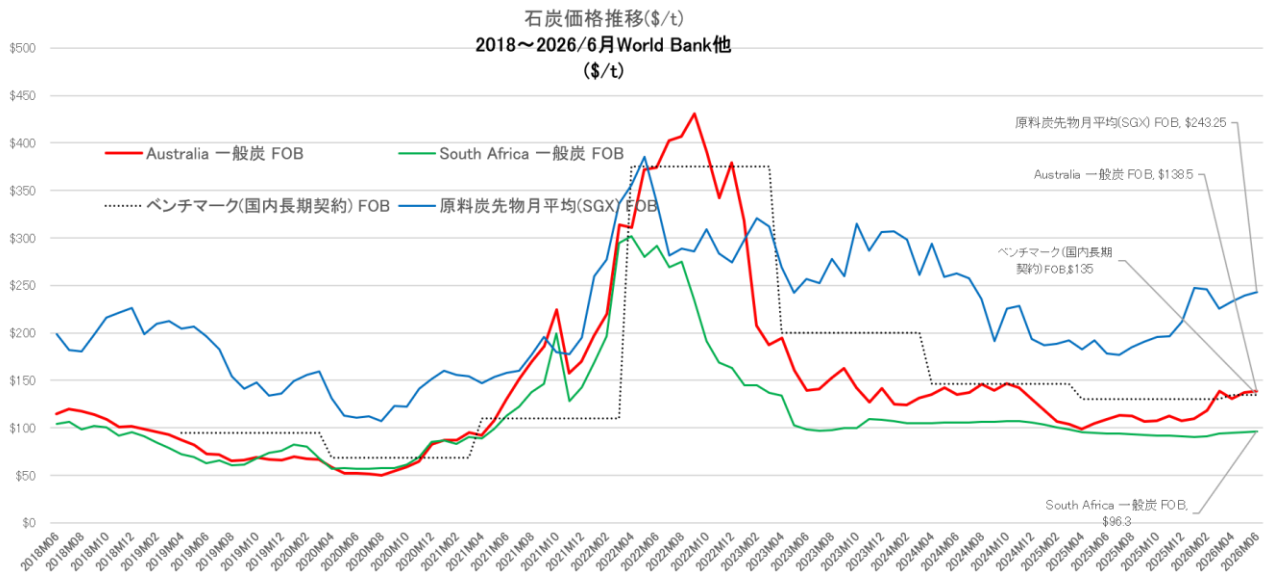
1 億 5,570 万トン(前年同月比+1.7%)

鉄鋼生産国上位 10 カ国の 6 月生産量

	生産量 (百万トン)	前年同月比 (%)	1~6 月合計 (百万トン)	1~6 月前年比 (%)
中国	83.7	0.4	500	-3
インド	14.1	4.5	87	7.1
アメリカ	7.2	3.5	42.8	6.3
日本	6.8	1.3	40.4	-0.4
ロシア(e)	5.6	-3.4	32.1	-8.4
韓国	5.3	-0.9	31.7	2.1
トルコ	3.3	14.7	19.8	8.1
ドイツ	2.9	9.5	18.6	8.9
ブラジル	2.8	0.1	16.3	-1.5
ベトナム	2.6	27.5	15.2	26.9

(e) : estimated

石炭価格推移



日本の炭種別石炭輸入量統計

(単位:トン)

年月	無煙炭	原料炭	一般炭	計
2025 年 6 月	200,897	4,446,293	6,029,517	10,676,707
2025 年 7 月	273,255	5,748,480	9,700,338	15,722,073
2025 年 8 月	305,677	5,356,775	10,519,625	16,182,077
2025 年 9 月	382,983	4,876,529	8,356,315	13,615,827
2025 年 10 月	245,494	4,962,466	9,318,864	14,526,824
2025 年 11 月	391,187	3,856,412	8,671,166	12,918,765
2025 年 12 月	318,735	4,975,382	9,344,681	14,638,798
2026 年 1 月	311,144	5,493,694	9,894,942	15,699,780
2026 年 2 月	238,160	4,666,152	8,735,281	13,639,593
2026 年 3 月	247,879	4,122,155	8,492,540	12,862,574
2026 年 4 月	246,791	4,769,559	7,102,007	12,118,357
2026 年 5 月	590,530	4,349,762	6,601,125	11,541,417
2026 年 6 月	343,405	4,263,695	7,147,875	11,754,975

出典:財務省貿易統計

※2025 年の統計は 2026 年 11 月に確定となるため、その間修正が入ります。

アンケートへのご協力お願い

CF マガジンのご愛読を頂きありがとうございます。

読者のニーズにお応えできる誌面づくりを目指しておりますので、皆様からのご感想をお聞かせください。各ページ右下にアンケート用紙へジャンプするリンクを埋め込んでおります。短時間でご回答いただけますので、各ニュースへのご感想、取り上げてほしい題材、マガジンの構成等、どのようなご意見でも頂戴できると幸いです。

独り言

梅雨が明けたと思ったら、今度はゲリラ雷雨。35℃を超える猛暑日も珍しくない一方で、突然の雨で気温が下がる日もあり、「今年は思ったほど暑くない？」と感ずることがあります。実際、東京では 7 月の最高気温が 30℃を大きく超える日が続く一方、雨の日には 20℃台まで下がるなど、気温の振れ幅も大きいようです。どうやら今年の夏は「暑くない」のではなく、「暑さが長続きしない」ということなのかもしれません。とはいえ、夏はまだまだこれから。油断していると、突然の酷暑がやってきそうです。
≈NKN≈